

①日本アレルギー学会と厚労省が共同して作成したアレルギーポータルサイトにアトピー性皮膚炎の解説があります。
読んでみましょう

アレルギーポータルは
<https://allergyportal.jp/>

②左にある 「アレルギーについて」 をクリックします。



③ 「アトピー性皮膚炎」をクリックします。

アレルギーについて

アレルギーの症状や治療などを解説しています。

アレルギーとは
アレルギーがどういうものか、説明しています。

アレルギーの検査について
アレルギーの原因となるアレルギー物質を調べるための検査について解説しています。

アレルギーの治療について
アレルギーの治療方法について解説しています。

主なアレルギー疾患

| | | | |
|---|--|--|--|
| 小児のぜん息 ぜん息の特徴や治療で大切なことを解説しています。 | 成人のぜん息 長期管理の大切さや薬の種類などを解説しています。 | アトピー性皮膚炎 抗炎症治療とスキンケアの大切さを解説しています。 | アレルギー性鼻炎 通年性と季節性の違いや治療などを解説しています。 |
| 花粉症 花粉症の特徴や治療などを解説しています。 | アレルギー性結膜炎 目に生じるアレルギーの特徴と治療などを解説しています。 | 食物アレルギー 正しい診断と栄養食事指導の大切さを解説しています。 | 重症薬疹 一部を争う重症薬疹の治療などを解説しています。 |
| 接触皮膚炎 原因の探し方や治療の進め方などを解説しています。 | 蕁麻疹(じんましん) 種々の原因で生じる疾患の特徴や対応法などを解説しています。 | ラテックスアレルギー 天然ゴム成分による疾患の特徴や回避法などを解説しています。 | アナフィラキシー 生命に關わる反応の経路や治療などを解説しています。 |

④アトピー性皮膚炎の解説を読むことができます。

しっかり読んでみましょう。



アレルギーについて アトピー性皮膚炎

特徴について

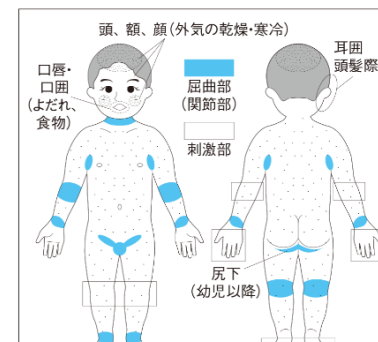
アトピー性皮膚炎の患者さんは皮膚のバリア機能が低下しており、さまざまな刺激に皮膚が反応して炎症が生じやすくなります。皮膚の広がり力は小児と成人では異なるという特徴があります。皮膚から水分が失われやすくなるために、乾燥肌の患者さんが多いこともアトピー性皮膚炎の特徴です。

アトピー性皮膚炎かな？ と考えられる患者さんが受診したときに、医師は次の各項目を思い出して診察します。

| | |
|---------------|---|
| アトピー性皮膚炎の定義 | アトピー性皮膚炎は、皮膚症状がくっきりと再発したりを繰り返し、強いかゆみのある湿疹が認められ、そして「アトピー素因」をもちます。 |
| アトピー素因 | ①家族にびん癌、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、アトピー性皮膚炎にかかったことがあるか ②患者ご自身がかゆい肌、あるいは腫れやかぶれがあったことがある。もしくは③「肌気体がしやすい」ことをいいます。 |
| アトピー性皮膚炎の診断基準 | ①強いかゆみがあること。 ②アトピー性皮膚炎に特徴的な湿疹（湿疹）が認められ、また「肌のふれに同じような場所」に湿疹があらわれます。湿疹は、おでこ、目や口の周り、首、手や足の指の間、足、手や足の指のわきのわかい部分にあらわれることが多く、皮膚症状が重なり合う傾向もよく見られます。 |
| 年齢的な特徴 | ・乳児期：顔や腕に始まり、次第に体や手足に広がっていき傾向があります。 ・幼小児期：首や手足の関節に湿疹がでやすい傾向があります。 ・思春期・成人期：上半身（顔、首、胸、背中）の皮膚が強い傾向があります。 |

症状について

アトピー性皮膚炎は皮膚が赤くなってブツブツがでたり、カサカサと乾燥して皮膚がむけたり、かさぶたができる場合があります。強いかゆみを伴う湿疹が生じて、バリア機能が低下して着涼なら感じないような刺激でかゆみが強くなって寝てしまい、さらに皮膚を悪化させるという悪循環をたどることが多くなります。



⑤解説を最後まで読むと 「よくある質問」があります。
ここもよく読んでみましょう。



| | | | |
|---|---|---|---|
| アトピー性皮膚炎に関する 対策についてはこちら | アトピー性皮膚炎に関する 書籍（患者さん向け）はこちら | アトピー性皮膚炎に関する 書籍（医療従事者向け）はこちら | アトピー性皮膚炎に関する よくある質問はこちら |
|  |  |  |  |
| アレルギー対策 | アレルギーの本棚 (患者さん向け冊子・書籍など) | アレルギーの本棚 (医療従事者向けガイドライン) | よくある質問 |

アトピー性皮膚炎 の検索結果

湿疹の悪化を防ぐための適切なスキンケアの方法を教えてください。

皮膚を清潔に保ち、必要十分な量の保湿剤などの塗り薬を使用して、湿疹がない皮膚、湿疹を繰り返さない健康な皮膚を目指しましょう。

スキンケアは、健康な皮膚を保つための手技であると同時に、アトピー性皮膚炎では疾患の特徴であるドライスキンを改善して保湿して、皮膚のバリア機能を補正するために行う、日々の皮膚ケアを意味します。具体的には、洗い流すなどにより皮膚を清潔に保ち、保湿剤などによりバリア機能を補正することをいいます。

アトピー性皮膚炎の治療では、アレルギー、汗、汚れ、黄色ブドウ球菌などによる影響（刺激）を防ぐことで、より保湿剤やステロイド外用薬などの薬剤の効果を高めることにつながり、きれいな皮膚を維持しやすくします。（参考：「小児アレルギー疾患保健指導の手引き」より）

#アトピー性皮膚炎 #湿疹

アトピー性皮膚炎は治りますか？

短期間では治すことはできませんが、正しい治療を、時間をかけて継続することで、アトピー性皮膚炎の症状が出ない状態を目指すことができます。

アトピー性皮膚炎の治療の最終目標（ゴール）は、正しい治療を行うことで、症状がないか、あっても軽微で、日常生活に支障がなく、薬物療法もあまり必要としない状態に到達し、それを維持することです。（参考：「小児アレルギー疾患保健指導の手引き」より）

#アトピー性皮膚炎